

チームかずま YOKOHAMA通信 八月増刊号

「しあわせつづき」子どもに誇りを。地域にぬくもりを。税金に納得を。

くらしのニュース

新横浜駅に
新図書館

新図書館を商業、サービス、技術体験できるショールームを交えた複合施設とする計画が進められています。総延床面積は二万平米に及び、新横浜徒歩1分の好立地に体験・交流型施設が誕生するこ



出店：横浜役所

いの空間に生まれ変わります。横浜市議会では、土地利用規制の見直しや容積率緩和など、開発に向けた具体的な条件が議論されています。

にっぽんの
伝統芸能
ごつづき

子どもたちが日本の伝統芸能を体験できるイベントが、9月6日(日)にボツシュホールで開催されます。午前は祭囃子の部に分かれており、今年は祭囃子や日本舞踊が体験できます。お昼休憩時には親子で参加できる箏や投扇興の体験も予定されています。



参政党横浜市政改革委員 むろい一真



一九八五年横浜市生まれ。横浜翠嵐高、立教大卒。内装・建設会社役員、神主。南山田お囃子「虫送り」、都筑PTA、日本会議、横浜青年会議所シニア会に所属。二〇二六年衆院選参政党公認候補。

ここが変だよ!!
横浜の政治①グリーンエキスポ参加国の
半分がアフリカから!?

花の万博として横浜と国の肝入り事業として推進されているGREEN X EXPO2027では現在参加表明国・機関70の内、なんと30以上がアフリカからの参加となっています。本来、広く参加を募るべきである万国博覧会で、この偏りは著しく不自然です。

25年のTICADにアフリカへ約八千億円の融資、ICGを通してのアフリカホームタウン問題など、国政と横浜市政のアフリカへの偏愛は異常です。ここに潜む利権について、調査を進めてまいります。

②多文化対応のシワ寄せ
教育現場から悲鳴届かぬ

増え続ける外国籍の子どもへの対応で、教諭の負担は増える一方です。中区では、外国籍の子どもが三割を超える学校も珍しくありません。さらに、強い口調でクレームを入れる保護者と、それに言い返せない教員の姿を見て、子どもが教員の指導を軽んじる例も出ています。「いざれ日本は自分たちの国の領土になる」と発言する子どもがいると報告があります。



精神疾患を理由に休職している小中教員は5,097人
教員不足が深刻化中、教育現場の負担軽減は喫緊の課題です。

終戦記念日

八月十五日はポツダム宣言受諾が玉音放送で流れ、大東亜戦争(太平洋戦争)が終結した日です。平和な現代ではありませんが、日本のために戦ってくれた英霊の方々、そして私たち日本人のご先祖に対して、静かに手を合わせたいものです。



★終戦記念イベント★
神奈川県連の仲間たちと映画で終戦の日について勉強会を行いました。教科書に書かれない歴史の裏側で、どれほどの国民が日本を守るために動いていたのか。鑑賞者には涙を流す方もいました。

チームかずまって
どんなチーム?

できる人が、できる時に、できる形でチームかずまは、難しい組織ではありません。地域をよくしたい人が、情報を持ち寄り、活動を少しずつ支える場です。

皆さまからの地域情報をお寄せください。道路、公園、学校、福祉、防犯、気になることを市政に届けます。
地域の声こそが、むろい一真の力の源です。

muroi.sanseirou@gmail.com